

# グローバル人材の育成を目指した英語教育

## ースーパーグローバルハイスクールー

樋口 晶彦 [鹿児島大学教育学系 (英語教育)]

海江田 修誠 [鹿児島県立甲南高等学校]

### English language education for the global society: Super Global High School (SGH)

HIGUCHI Akihiko · KAIEDA Nobunari

キーワード：グローバル人材育成、スーパーグローバルハイスクール、第二期教育振興基本計画、異文化理解、コミュニケーション能力

#### 1 緒言

文部科学省は平成25年6月14日の閣議決定を受けて「第二期教育振興基本計画」を進行中である。特に「グローバル人材の育成を目指した英語教育の在り方」は注目に値する。それによると、日本人としての identity や日本の文化に対する深い理解を前提として、1. 豊かな語学力・コミュニケーション能力、2. 主体性・積極性、3. 異文化理解の精神などを中心とした内容になっている。さらにそれらは、以下のような項目に分けることができる。

・小・中・高等学校を通じた英語教育の強化 ・国際バカロレア等を活用した人材育成 ・スーパーグローバルハイスクールの創設 ・日本人学生などの海外留学支援 ・外国人留学生の受け入れ ・スーパーグローバル大学の重点支援

こうした政策は、近年、世界の言語政策に遅れをとっていた我が国がようやく本格的にかつ具体的な政策を打ち出してきたものと捉えられる。(樋口、2006)、(Council of Europe, 2001)、(大谷他、2004) 本研究では、鹿児島県で唯一の指定を受けた鹿児島県立甲南高等学校のスーパーグローバルハイスクール (SGH) の教育実践について報告してさらに課題、今後の展望も含めて論じることとする。この甲南高校の SGH については、海江田が主に担当して、他の関連した言語政策の部分は樋口が担当することで、現在進行中の「第二期教育振興基本計画」を効果的に推進していくための必要不可欠な注目すべき諸点を明確にしていきたいと考えている。まず、甲南高等学校の SGH から始めることにする。

甲南高等学校 (以下本校と呼ぶ) は平成27年度から国のスーパーグローバルハイスクールとしての指定を受けた。鹿児島県内では唯一の指定校となっている。スーパーグローバルハイスクールとはどんな活動が求められているのか、手探りのスタートとなったが、この1年で、鹿児島大学を

はじめ、国内のいくつかの大学と連携を結ぶことができ、課題研究の時間に生徒を指導していただけるようになった。大学の先生方から直接指導を受ける経験は高校生にとってたいへん貴重な経験となっている。

また、このスーパーグローバルハイスクールの指定と併行して、同窓会による創立110周年記念事業の一環として「めざせ!! 21世紀薩摩スチューデント事業」と命名した生徒海外派遣事業も始まっている。

今回は、本校がスーパーグローバルハイスクールの指定を受けるに至った経緯等を紹介し、スーパーグローバルハイスクールとしての活動と海外派遣事業の組み合わせにより、本校独自の教育活動が展開され始めていることを報告することとした。

## 2 スーパーグローバルハイスクールの指定の経緯

- ① 平成26年度から国の制度としてスーパーグローバルハイスクールが始まった。募集に当たって、本校も申請をすることとなった。本校は平成16年度から「地球規模でものを考え行動するリーダーを育成する」ことを教育目標に掲げていることから、当時の校長からは「申請は当然」との判断だったと聞いている。
- ② ところが国から届いた回答は、本校はアソシエイト校とするというもので、スーパーグローバルハイスクールとしては認定されなかった。不認定の要因を探ると、「課題研究が自由研究型のまま、問題解決型になっていない。」という指摘とともに、「英語で発表する力がある生徒を育てる仕組みがなければならぬ。」という条件が見えてきた。
- ③ 本校では、平成13年度に総合的な学習が始まって以来、この時間をKonan Innovation Project（通称KIの時間）と称して、普通科の中では先駆的に課題研究に取り組んできた。その内容は、大学で勉強したい自分が興味を持つ分野について調べまとめるというもので、2年次から始めた課題研究をマスターピースと称して3年次には発表会まで行い、発表集まで作成してきた。このやり方ではスーパーグローバルハイスクールとしては否定的な見方をされたことになる。あわせて、このマスターピースを英語で発表することが要求されているのなら本校ではスーパーグローバルハイスクールの申請は難しいのではと考えざるを得なかった。
- ④ 次年度の申請をどうするかを検討を続ける中で、背中を押すことになったものは、中教審の答申であった。今後大学入試改革が進められ、大学入試において「思考力・表現力・判断力」がキーワードになることが明らかになり、これまでのような課題研究の在り方では時代遅れになるという危機感を感じた。設定された課題について調べまとめ、自分の意見を誰からも「なるほど」と言われる学術的な方法で発表できる力を養わなければ、これからの大学入試は太刀打ちできない。それならばスーパーグローバルハイスクールに名乗りを上げて先取りをしようと、職員の意見がまとまったところがある。
- ⑤ 最後の問題として、全員に英語で発表することを課すかということがあった。この点について、同窓会の創立110周年記念事業として生徒海外派遣事業を実施できないかを検討していたことか

ら、海外派遣を希望する生徒に対しては英語で発表することを課すという方向で申請することとなった。

### 3 スーパーグローバルハイスクールとしての活動

#### (1) 国の制度の概要

国の制度としてのスーパーグローバルハイスクールの概要を、本校が作成したパンフレットから紹介する。

1 スーパーグローバルハイスクールは、平成26年度から始まった制度で、グローバル・リーダー育成に資する教育課程等に関する研究開発を行う指定を受けた高等学校等のことを言います。平成26年度に56校、27年度に56校、計112校が指定を受けています。

2 生徒の社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図ることを目的としています。

3 スーパーグローバルハイスクールの高等学校等は、次のようなグローバル・リーダー育成に資する教育を求められています。

- ① 目指すべきグローバル人物像を設定する。
- ② グローバルな社会課題、ビジネス課題をテーマに横断的・総合的な学習、探究的な学習を行う。
- ③ 国際化を進める国内外の大学を中心に、企業、国際機関等と連携を図る。
- ④ 課題研究のテーマに関する国内外のフィールドワークを実施し、高校生自身の目で見聞を広げ、挑戦する。

★（本校の判断）スーパーグローバルハイスクールの教育活動で鍛えられた受験生の力が、思考力、判断力、表現力が求められる今後の大学入試で一層役立つことが予想されます。

#### (2) 本校での取組

国の制度に対応した本校の取組の概要を、同じく本校が作成したパンフレットから紹介する。（丸数字は前項3の項目に対応）

##### ① どんなグローバル人物像を目指していますか？

甲南高校では取組の目標を「地球規模でものを考え行動する21世紀薩摩スチューデントの育成」としました。薩摩藩英国留学生のように、積極的に行動し社会の発展に寄与するグローバルリーダーの育成を目指します。

##### ② どのようなグローバルな社会課題に取り組む探究的な学習を行いますか？

○ 課題研究（1～3年次 総合的な学習の時間（W-KIの時間）で取り組みます。）

- ・ 本県にとって重要な問題である「人口問題に起因する諸問題の解決」をテーマに課題研究に取り組みます。
- ・ 地域課題、国内外事例研究にととまらず、解決策の提案まで取り組みます。

※ 調べ、まとめ、提案する経験を通して、思考力・判断力・表現力を育成します。

○ 学校設定科目「Advanced English」

- ・ 2年～3年次選択（「学びにUK」プログラム 希望者）
- ・ 課題研究で取り組む内容を英語で表現できる力を養います。

③ どのような機関と連携しますか？

- ・ 課題研究について専門的な指導をしていただく主な連携先は次のとおりです。

鹿児島大学、東京大学、広島大学、和歌山大学、ケンブリッジ大学、屏東大学（台湾）鹿児島  
経済研究所 南日本新聞社など

④ どのような国内外での研修を行いますか？

○ 甲南高校同窓会による生徒海外派遣事業（めざせ!! 21世紀薩摩スチューデント事業）

- ・ 1年生9月台湾へ（「学び台湾」）2年生3月イギリスへ（「学びにUK」）
- ・ 課題研究についての研修・意見交換・発表や、見聞を広めることをねらいとします。

※ 同窓会の生徒支援により、関心のある多くの生徒に海外を経験するチャンスがあります。

○ 国内研修

- ・ 課題研究（人口問題）についての研修：広島大、和歌山大等

#### 4 生徒海外派遣についての同窓会との調整

##### (1) 創立110周年記念事業

スーパーグローバルハイスクールとしては、フィールドワーク及び研究発表を行う目的において、生徒を海外に派遣することが求められ、一定の金額もそのために使うことが認められているが、本校がスーパーグローバルハイスクールの2回目の申請を行い、その結果を待っている間に、学校として同窓会に対して、生徒を海外に派遣する活動を同窓会の力でできないかという働きかけを行った。本校としては、海外修学旅行を取りやめたあと、「地球規模でものを考え行動するリーダーを育てる」という教育方針を掲げながら、具体的な方策が取れないでいたことから、たとえスーパーグローバルハイスクールの申請が再び落ちたとしても、生徒を海外に派遣する取組を行いたいという気持ちがあった。ちょうど創立110周年記念の事業を同窓会も検討している時にあたり、2月中旬の同窓会の会合において、「めざせ!! 21世紀薩摩スチューデント事業」の名称で、1年生9月台湾へ（「学び台湾」）2年生3月イギリスへ（「学びにUK」）生徒を選抜して派遣するという学校の提案が了承された。

##### (2) 生徒海外派遣についての同窓会との整理

その後、前述のとおり本校スーパーグローバルハイスクールの指定を受け、そのことを踏まえて、生徒海外派遣に関して同窓会と次のような整理を行った。（H27.8.1 同窓会実行委員会で承認）

～めざせ!! 21世紀薩摩スチューデント事業～

[1 ねらい]

- ① 甲南高校の教育方針である「地球規模でものを考え行動するリーダーの育成」を図る機会とする。
- ② 派遣生徒においては、異文化に直接触れ見聞を広めるとともに、学習の成果を踏まえた現地での交流を通じて、グローバルなコミュニケーション力や学ぶ意欲を高める。
- ③ 派遣生徒の事前、事後の活動を刺激として、他の生徒の意欲の向上も図り、学校全体の活力をさらに押し上げる。
- ④ 同窓会と在校生のつながりをより緊密にする機会とする。

## [2 同窓会と学校の関係の整理]

- ① 甲南高校同窓会が創立 110 周年記念事業として実施する。
- ② 同窓会は、学校に海外派遣事業を教育活動として運営することを委託する。
- ③ 学校は、同窓会に定期的に活動状況を報告し、必要に応じて両者で協議する。
- ④ 同窓会が派遣生徒に係わる機会を適宜設ける。(壮行会、報告会、授業参観等)
- ⑤ 同窓会は、海外派遣の事前研修等において、講師等の人材情報を提供する。

## [3 海外派遣の在り方]

- ① 国内外でグローバル人材の育成が求められ、学校もスーパーグローバルハイスクールに指定されたことに鑑み、スーパーグローバルハイスクールとしての教育課題に積極的に取り組む生徒を選抜し派遣する。
- ② 当面派遣する国は台湾、イギリスとするが、訪問国、研修内容、日程等は、今後の状況を見ながら、適宜検討する。また、派遣の人数、生徒（保護者）負担についても、状況を見ながら、適宜検討する。

## [4 スーパーグローバルハイスクール（SGH）について]

### (1) SGH とは

- ① グローバルリーダー育成に資する研究開発を行う学校のことであり、社会課題に対する課題研究を大学等と連携して行うことが主なねらいとなっている。
- ② 課題研究に関連して生徒を海外に派遣することが求められてはいるが、SGH＝国の海外派遣事業ではない。
- ③ 今後、SGH で課題研究に取り組み、問題解決力等の力を付けた生徒を求める大学が難関大学を中心に増えていくと思われる。
- ④ 全国の高校での生徒海外派遣の取組も、海外経験をさせることに重きを置く発想から、大学との連携等で事前学習を充分に行い、課題意識をしっかりと持たせて派遣する SGH 型の取組に移行しつつある。

### (2) 本校の状況

- ① 本校は今年度から SGH としての新しいカリキュラム (W - KI における課題研究, Advanced English 等) に取り組んでいる。生徒は其中で学ぶことにプライドを持って臨んでおり, 学習意欲は高い。
- ② 課題研究のテーマ「人口問題」に関して大学等と連携し専門家の指導も受けており, また, 台湾事前研修も専門家から指導を受けることができた。
- ③ その取組で「がんばれば台湾やイギリスに行ける」ことで, 生徒のモチベーションは高い。生徒の努力に応えたい。

#### [5 本海外派遣事業と SGH の関係]

##### (1) 確認

2/14 実行委員会です承を得た本生徒海外派遣事業の内容は, SGH として行うことが求められる海外派遣事業の内容と合致している。

##### (2) SGH の海外派遣予算の問題点

- ・ 今年度は 300 万円 (来年度以降は未定)
- ・ 派遣できる人数が限られる。
- ・ 派遣人数を多くすれば不足分は高額個人負担となる。

##### (3) 本海外派遣事業により, 日本一の SGH の取組が実現する。

###### ★ 同窓会から生徒への支援があれば

- ・ 家庭の経済力による派遣とせず
- ・ 派遣できる人数をある程度確保できる。

○ がんばって成果を上げた生徒を学校代表として派遣できる。

○ 生徒のやる気に応える+生徒のやる気を引き出せる。

※ このことは本校同窓会だからこそできることであり, その意義は大きい。このことについて生徒 (保護者) に繰り返し説明をすることで, 同窓会の意義を生徒も理解する。

#### [6 費用について]

##### ○ 1 期生について

人数: 薩摩スチューデント 19 人 (若き薩摩の群像 17 人), 各学級 2 人ずつとして 16 人が目安であるが, 費用を考慮して, 1 期生としては 1 年生, 2 年生とも 15 人派遣する。

費用: 同窓会からの補助を 500 万円として, 不足する分は, 生徒負担 (学び台湾: 3 万, イギリス 5~6 万円) とする。2 期生以降の派遣人数, 生徒負担額は, これに縛られないものとする。

##### ○ 2 期 (来年度出発) 以降の考え方

不確定要素が多いため, 同窓会の生徒支援の総額決定後, 同窓会の支援額相当の範囲で様々な要素等を総合的に判断して派遣人数等, 学校側が同窓会に説明し同意を得る。

## 5 「学び台湾」プログラム（対象：1年生）

### (1) ねらい

1年生の早い時期に海外体験をさせ、刺激を与えリーダー育成につなげる。

### (2) 台湾を研修場所とする理由

- ① 台湾と鹿児島・日本は地理的、歴史的にも近い関係にある。鹿児島とは直行便も開設され、現在鹿児島を訪れる外国人の中で台湾からの訪日者が最も多く、最も身近な外国である。
- ② ホームステイの実施等、治安その他安全面からも保護者の同意を得やすい。
- ③ 日本と同じく少子高齢化社会となっており、課題研究のテーマである人口問題についても、現地の高校生や大学生と意見交換をしやすい。
- ④ 観光施設の他、工業団地や日本と縁の深い農業干拓地等の視察等、食・環境・ビジネス・観光の観点からフィールドワークを行える施設が多い。

### (3) 研修日程 資料1

### (4) 経費（最終）

1人当たり 240,000 円（パスポート取得代、海外旅行保険、スーツケース等は除く）

### (5) これまでの経緯

H27 2/22 学校のホームページ上で生徒海外派遣事業を紹介（高校入試前受検生向け）

4/7 入学式にて、校長式辞で新生入生に生徒海外派遣事業を紹介

4/9 1年生オリエンテーションで説明

4/24 第1回保護者説明会（60家族参加）

5/7 志望理由書締切（20人申込）

5/11 事前視察（引率教諭～14日 屏東大学、高校と打合せ）

5/23 最終希望者を面接、審議（同窓会長同席）→その後学年会等で了承

※志望理由書、面接、入学後の状況等から判断

6/2 派遣15人を発表

6/25 第2回生徒・保護者説明会（日程・費用見通し、海外旅行の手続き等）

### (6) 事前学習

夏季補習中の午後を使って、以下のような準備を進めた。

- ① 課題研究のテーマである人口問題について、日本と台湾を比較しながら学習し、台湾の大学生や高校生とのディスカッションに備えた。

### ② 事前学習講座 資料2

### (7) 事後の報告会等

- ① 帰国後、いろいろな場面で報告会を実施した。

10/9 1年生合同のW-KI（総合的な学習）の時間で報告

10/3 SGH 研究公開の中で報告

11/19 同窓会幹事会で報告

- ② 年度末までに、参加生徒のレポート集を作成する予定

## 6 「学びに UK」プログラム（対象：2年生）

### (1) ねらい

2学年の最後に世界の中で英語で発表する経験をさせ、将来の可能性を広げる。

### (2) イギリスを研修場所とする理由

- ① 薩摩藩英国留学生派遣 150 周年を契機として、先人の足跡をたどる。
- ② オックスフォード大学や近隣のミルヒル高校で英語による課題研究の成果を研究発表することにより力試しができる。
- ③ 移民社会の現状に直に触れることにより、日本の今後を考える機会とする。
- ④ ケンブリッジ大学でのニュートンの事跡や大英博物館などイギリスならではの文化に触れることができる。食・環境・ビジネス・観光の観点からフィールドワークを行える施設が多い。

### (3) 研修日程 資料3

### (4) 経費

1人当たり 378,000 円（パスポート取得代、海外旅行保険、スーツケース、観劇等オプションの費用は除く。）

### (5) 前年度の経過

H27 2/16 1年生（現2年）学年朝礼で生徒海外派遣事業を紹介

3/3 「学びに UK」保護者説明会を実施（旧1年生：現2年生）66家族参加，カリキュラムの変更を説明（W - KI と Advanced English を履修する）志望理由書の配布

3/25 「学びに UK」40人を選抜発表

### (6) 今年度の活動

- ① 「学びに UK」40人は、W - KI, Advanced English の時間で、人口問題を英語で論じ自分の考えを提案する学習をする。
- ② 鹿児島大学と連携が進み、月に1回程度、数名の先生方に来校を願い、生徒の課題研究について指導していただく態勢が整った。また、鹿児島大学の図書館に出入りが許可された。
- ③ 生徒の学習意欲は極めて高い。
- ④ イギリス派遣メンバーの決定
  - 11月 中間発表会
  - 12/5 保護者説明会  
(テロ問題への対応)
  - 1/5 ~ 7 最終発表会
  - 1/15 派遣 15人を発表
  - 1/22 保護者説明会

### ⑤ 研修日程



- ・ 2月上旬、イギリス研修に選ばれなかった生徒を対象に、和歌山大学、広島大学で研修実施
- ・ イギリス研修の準備

#### (7) イギリス派遣 15 人の課題研究テーマ

課題研究を進め、最終発表会を経て選抜された 15 人の課題研究のテーマを列挙する。イギリスでの発表を経て、さらに 3 年次まで研究を続けていく予定である。

- ・ Wi-Fine!! ～ Wifi とポータルサイトで鹿児島を元気に！  
(Wi-Fine! Wifi and the Portal Site Make Kagoshima and Tourists Fine!)
- ・ Water and Smile  
(Water and Smile)
- ・ Good Use of Vacant Houses in Kanoya  
(Good Use of Vacant Houses in Kanoya)
- ・ 建設業におけるペア就労  
(Pair Working in Construction)
- ・ 孤立死解消のための高齢者と若者によるホームシェアの提案  
(The Home-Share for the Youth and the Aged -- How to Address the Issue of Solitary Death)
- ・ 仕事と育児の両立～地域で支える企業内保育所～  
(Balance of Work and Childcare Nursery School in the Company to Support Working Mothers)
- ・ 日本における新しい交通のかたち  
(New Style of Transportation)
- ・ 現代の医療における地域格差  
(Current Challenge of Medical Care in Remote Areas)
- ・ 廃校の複合型施設への転用（2 人の共同研究）  
(Soo Good!)
- ・ 振動力発電の応用  
(Vibration Power Generation)
- ・ 地域に貢献する学生観光ガイド  
(Young Loves Kagoshima)
- ・ 棚田の保全  
(How to Save Terraced Field)
- ・ 自動販売機で飢餓を救う  
(Help People from Hunger by Using Vending Machine)
- ・ 鹿児島茶を世界に  
(Kagoshima Tea to the Foreign Countries)

#### 7. 結論と課題

戦後、英語は多くの変種 (variety) を誕生させながら世界に拡散してきた (Stevens, 1980), (Kachru, 1982, 1985), (Higuchi, 1992)。今や英語は世界のリンガ・フランカとしての存在を益々強固なものとして今日に至っている (Graddol, 1997, 2006), (鈴木, 1987)。

そうした現状において、我が国のグローバル人材育成のための英語教育を考える際に、まず第一に我が国の外国語教育政策が、韓国、アメリカ、EUに大きく遅れをとっていたことを理解しておかねばならない (大谷, 1997), (河合, 2004)。国語教育を含めた言語政策に積極的に取り組んできた EUにも再度目を向けてその言語政策の進展と内容に注目しておくことも肝要である (Council of Europe, 2001), (Graddol, 1997, 2006)。

1989年、現在のEUの前身である当時のECにおいて外国語教育のあり方を根本的に改革しようとする画期的なリンガ・プログラムが採択された。この中において、多様な言語と多様な文化の共存と交流を尊重する方向が初めて明確に打ち出されることになった。これが、現在のEUの複言語主義 (plurilingualism) の言語観に結びついている。これは、多言語主義 (multilingualism) ではなく、EUの基盤をなす全ての多様な言語、方言、文化を認容する立場をとることを意味するもので、「不戦共同体」としてのEUの今後の中核となるものと考えられる。このように、不戦共同体、人権の尊重、民主主義の確立、法の遵守などはEUが求めている外国語教育の究極の目標と考えられているものである (樋口, 2006)。

翻って我が国のグローバル人材の育成を目指した英語教育の目的に目を向けると、豊かな語学力・コミュニケーション能力が主たる目標の一つと考えられていて、ようやく異文化理解の精神とか、主体性・積極性の精神とかが出てくるようになった。ただ、これらの目標の実現のためには、「日本人としての identity や日本の文化に対する深い理解を前提として」という文言がしっかりと明記されていることを十分理解しておくことが肝要である。まず自国の歴史、文化に対する理解を前提とする教育があってグローバル人材の育成に繋がってくることをSGHの担当者も、生徒もその辺りを十分認識しておくことが大切であろう。自国を知らずして異文化理解は不可能なのである。そう簡単なものではないことを認識しておくことである。

## 8. おわりに

グローバル人材の養成の必要性が叫ばれる中で、学校現場としては、それではグローバル人材とはどのような人材なのかを教師一人一人が自分の言葉で語れることが求められていると思う。単なる国際化と一線を画すとすれば、英語が話せることだけが求められているわけでもないことは自明である。スーパーグローバルハイスクール1年目の取組の中で、自分の考えをしっかりと持つことが大切だと生徒を指導してきた。そのためにはしっかりと勉強しないといけないということを生徒も実感し始めているようだ。そして自分の考えを相手にどう伝えるかという段階が来る。「学び台湾」で台湾を訪問した1年生の感想として、相手に自分のこと、鹿兒島のこと、日本のことをどう説明するか、台湾を訪問するまでこんなに真剣に考えたことはなかったという感想があった。こういうところから始まるのだろうと実感したところである。

2年生の学びにUKグループ1期生は、1年間という期間の中で、英語で課題研究を発表するという段階まで進んだ。結果は全員が高い内容とまではいかなかったが、高校生はやればできるという可能性を示してくれた。まもなくイギリスに出発するが、帰国後どんな感想を聞かせてくれるか楽しみである。

[参考文献]

- Council of Europe. (2001) . *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: CUP.
- Crystal, D. (1988) . *The English Language*. London: Penguin.
- Graddol, D. (1997) . *The future of English? 英語の未来* . Translated by Yamagishi Katsuei. Tokyo: Kenkyusha Publishing Co.
- \_\_\_\_\_ . (2006) . *English Next*. British Council
- Higuchi, A. (1992) . New English in the Education System – Focusing on Singaporean English –*JALT Journal* Vol. 14 No.2 pp.159 – 171
- Kachru, B. (Ed.) (1982) . *The other tongue : English across cultures*. Oxford : Pergamon.
- \_\_\_\_\_ (1985) . Standards, codification and sociolinguistic realism: the English language in the outer circle. In R. Quirk and H.G. Widdowson (eds.) *English in the World*. Cambridge: CUP
- Stevens, P. (1980) . *Teaching English as an international language*. Oxford: Pergamon.
- 樋口晶彦 (2006) . 日本の外国語教育改革－韓国の第7次教育改革とヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) の理念から－鹿児島大学教育学部研究紀要 教育科学編
- 河合忠仁 (2004) . *世界の外国語教育政策* －日本の外国語教育の再構築にむけて (大谷泰照他編著) －東信堂
- 大谷泰照 (1997) . 韓国の外国語教育事情 *英語教育* Vol.46 11月号
- \_\_\_\_\_他 (2004) . *世界の外国語教育政策* －日本の外国語教育の再構築にむけて－ 東信堂
- 鈴木孝夫 (1987) . 文明史的観点から見た日本語の国際化 国際交流 45号
- \_\_\_\_\_ (1996) . *資料日本英学史2 英語教育論争史* p. 409 – 大修館

## 資料1 「学び台湾」研修日程

1	15日(火)	空港集合 鹿兒島～台湾 台北にて観光学研究	ホテル
2	16日(水)	桃園にて工場見学, 新竹にてICT産業研修 台湾高速鉄道を使用して移動 屏東市で交流準備	ホテル
3	17日(木)	国立屏東大学応用日本語学科生と交流(テーマ: 少 子高齢化社会を生きる) 池上一郎博士文庫見学	ホームステイ
4	18日(金)	国立屏東高級中学, 国立屏東女子高級中学の生徒と 交流(テーマ: 少子高齢化社会を生きる)	ホームステイ
5	19日(土)	昼までステイ先の家族と過ごす 移動後 エコファ ーム農場体験 高校生, 大学生とディスカッション	宿舎
6	20日(日)	台南市へ移動 市内研究(孔子廟等) 烏山頭, 八 田与一記念館等研修	ホテル
7	21日(月)	台南市内研修(安平エリア等) 台湾高速鉄道を使用して台北へ移動	ホテル
8	22日(火)	台湾～鹿兒島 空港解散	

## 資料2 「学び台湾」事前研修

日	講座名	講師
7/22 水	アジア経済概論	芝田浩二 ANA ホルディングス執行役員(27期)
7/23 木	台湾社会概論	山田怡如 県台湾蓬萊会代表
7/24 金	中国語初級①	後田栄子 iBS 外語学院講師
7/27 月	台湾経済概論	萩原 豪 高崎商科大学商学部准教授
7/28 火	コミュニケーション論	南 徹 iBS 外語学院院长(20期)
7/30 木	英語コミュニケーション演習	オックスフォード大学院生他
8/19 水	中国語初級②	後田栄子 iBS 外語学院講師
8/29 水	台湾史	本校教諭

## 資料3 「学びにUJ」研修日程

3/3日(木)	鹿兒島空港～羽田空港～ロンドン ホームステイ先へ
3/4日(金)	オリエンテーション 研修準備
3/5日(土)	ロンドン市内研修 ミュージカル鑑賞
3/6日(日)	オックスフォード大学生と交流 課題研究発表
3/7日(月)	オックスフォード大学生と交流 課題研究発表
3/8日(火)	ケンブリッジの研究室訪問 意見交換
3/9日(水)	Mill Hill School 訪問 生徒と交流 課題研究発表
3/10日(木)	ロンドン大学で薩摩スチューデント記念碑見学 大英博物館見学
3/11日(金)	ロンドン市内研修 ロンドンヒースロー空港発
3/12日(土)	羽田着～鹿兒島空港 空港解散